気候情報

2002年7月の日本の天候

高温（東日本），多雨・寡照（北日本，南西諸島）

天気概況

梅雨明けは，九州南部では平年に比べ8日遅かったものの，その他の地方でほぼ平年並であった．東日本や西日本では上・中旬は梅雨前線が不活発な日が多く，下旬は太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かったため，高温となった．南西諸島や東日本では台風と梅雨前線の影響で多雨となり，北日本では梅雨前線と低気圧の影響で曇りや雨の日が多く，多雨・寡照となった．

上旬：台風第5号が3日から4日にかけて南西諸島を通過し，6日には日本海に進んで温帯低気圧に変わったため，東日本の日本海側から東北地方にかかっていた梅雨前線の活動が活発となった．その後は，東日本から西日本の太平洋側にかけて太平洋高気圧が一時的に張り出していたが，台風第6号が8日から9日にかけて南大東島付近を通って北上を続け，10日には関東地方に上陸した．**旬平均気温**は，南西諸島で低かったが北日本では平年並で，東日本や西日本では高かった．**旬降水量**は，西日本で平年並だった他は多く，特に南西諸島では台風の影響で平年の4倍近かった．**旬日照時間**は，全国的に少なかった．

中旬：11日に台風第6号が北海道に再上陸した．12日には台風第8号が南西諸島を通過，また，14日には台風第7号が南西諸島を通過し，16日には関東地方に上陸する等，前半は台風の影響を受けた地域が多かった．その後，北日本を中心に梅雨前線の活動が活発となったものの，20日には太平洋高気圧が張り出し，関東甲信・東海・近畿・四国地方で梅雨明けとなった．**旬平均気温**は，南西諸島で低かった他は高かった．**旬降水量**は，全国的に多く北日本では平年の約3倍となったが，西日本では日本海側を中心に少ない所があった．**旬日照時間**は，北日本や南西諸島で少なく，西日本で平年並となったが，東日本では太平洋側を中心に多かった．

下旬：梅雨前線がゆっくり北上して，21日には九州・中国地方で，23日には東北南部・北陸地方で，25日には東北北部で梅雨明けした．このため，東北地方から九州北部にかけては，太平洋高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が多かった．また，北海道では梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響を，九州南部では25日に屋久島付近を通過した台風第9号の影響を受けた．**旬平均気温**は，東日本や西日本で高く，北日本や南西諸島では平年並となったが，北海道では低かった．**旬降水量**は南西諸島で平年並となったものの，その他の地方では少なかった．**旬日照時間**は，東日本や西日本で多く，南西諸島や北日本では平年並となった．

7月の気候統計

平均気温：東北地方から九州地方にかけての広い範囲で平年を1℃以上上回った．さらに関東，甲信，近畿地方の一部などでは平年を2℃以上上回った．日光（栃木県）で月平均気温の最高値を更新し，河口湖（山梨県）ではこれまでの月平均気温の最高値とタイ記録となった．一方，北海道と南西諸島は平年を下回り，北海道の一部では平年を1℃以上下回った．

降水量：北海道，東北，関東地方の一部，甲信，北陸地方と九州南部から南西諸島で平年を上回り，特に北海道のオホーツク海側の一部と日本海側の一部，東北，北陸地方，南西諸島の一部などでは平年の170%以上となった．相川（新潟県）と種子島（鹿児島県）では月降水量の最大値を更新した．一方，関東南部，東海地方と西日本では平年を下回り，特に八丈島，東海地方と中国西部の一部では平年の40%以下となった．

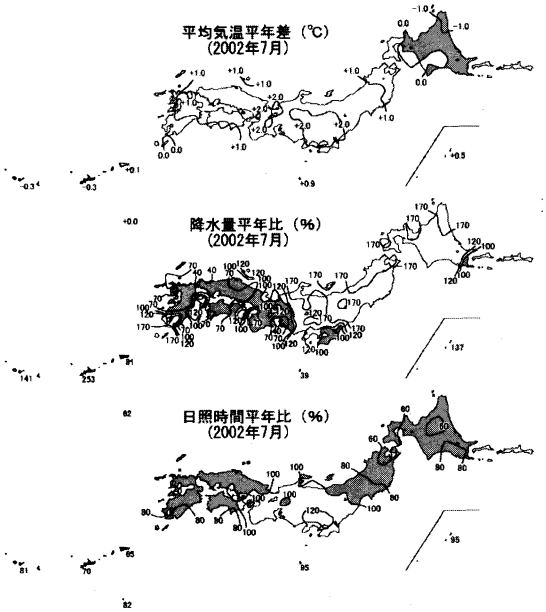
日照時間：東日本と近畿地方で平年を上回り，特に関東と甲信地方の一部で平年の120%以上となった．一方，北日本と近畿地方を除く西日本では平年を下回り，特に北海道，東北北部と九州南部から南西諸島にかけての一部では平年の80%以下に，さらに北海道の一部，東北北部の一部などでは平年の60%以下となった．また，青森で月間日照時間の最小値を更新した．

生物季節現象：アブラゼミの初鳴きが平年並か早かった．

7月の記録（1位更新のみ）

- **月平均気温の高い記録**（℃）
  日光　19.9，河口湖　23.5（タイ記録）
- **月降水量の多い記録**（mm）
  相川　494.0，種子島　593.5
- **日照時間の少ない記録**（時間）
  青森　96.2

2002年7月の平年差（比）図



注）陰影の部分は，平年より低い（少ない）地域を示す